



子どもの笑顔かがやく兵庫県に くらし・福祉最優先の県政へ

きだ 結

兵庫県議会議員

プロフィール **きだ 結** 検索

プロフィール

1970年生まれ。神戸女子薬科大卒。薬剤師。東神戸病院などに勤務。95年の阪神・淡路大震災で被災、医療分野で被災者支援。2011年4月県議会議員に初当選。健康福祉常任委員。保育所父母の会会長をつとめる。渦森台在住。家族は夫、小4と小1の女の子。

昨年は大変お世話になりました。総選挙では民主党政権への怒りの審判が下されましたが、復活した自民・公明政権は、4割の得票で8割の議席を得るといふ、私たちの思いとかけ離れた選挙結果ではなかったでしょうか。個人消費をさらに落ち込ませ不況を悪化させる消費税増税をはじめ、原発再稼働、憲法改悪、TPP参加など安倍政権が狙う悪政を許さず、命と暮らしを何よりも大切に新しい政治の実現のため、引きつづきがんばります。

そのために今年おこなわれる参議院選挙、県知事選挙、神戸市長選挙に全力を尽くします。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

もっと子育て応援。高齢者も安心して暮らせるように

予算申し入れで知事に迫りました

子ども医療費は 中学卒業まで無料に

●西宮市など県内10市町で中学卒業まで通院・入院とも無料になっていますが、どこに住んでも安心してお医者さんにかかるよう県の制度にすべきと求めました。



井戸知事(手前左)に2013年度予算について申し入れ(11月9日)

保育所・学童保育所の 整備をすすめ、子育てしながら 安心して働き続けられる環境作りを

県内全ての中学校で、 温かくおいしい給食の実施を



請願討論で求めました

年金2.5%削減の中止を 国に要望すべき

●減り続ける年金。その理由とされる物価下落は高齢者の生活とあまり関係のない電化製品など。一方、介護保険料、後期高齢者医療保険料は上がりっぱなし。これ以上の年金削減は中止を。



本会議で請願討論(12月14日)

教育予算の増額で 全ての子どもたちに学習権の保障を

●小学4年まで実施されている少人数学級を中学3年まで拡充し、誰もがわかる授業を。
●小中学校の特別支援学級の増設、特別支援学校の新設をすすめ、過大・過密・長時間通学を解消すること。

神戸市で中学校給食実現を

～「選択制」ではなく全員対象のおいしい給食を～

昨年2月から始まった神戸市の「中学校昼食検討会」もいよいよまとめに入り、ヤマ場です。「中学校給食を実現する会」は10万近くの署名を市に提出

しました。生徒が家庭弁当と業者弁当給食に分かれる「選択制」でなく、全員が食べる温かくおいしい、当り前の給食の実現に全力を尽くします。



運動会の日小学校前前で。署名は東灘区で1万筆を超えました。右の写真右から、きだ、松本市議

実現 しました!

県立柏原看護専門学校が 市立で存続

県は昨年、「行革」で県立の2つの看護専門学校(柏原、淡路)の廃止を打ち出しました。

きだ県議は授業料の安さ、地域高校生の重要な進路、看護師確保の観点からも存続すべきだとくり返し訴え、柏原看護専門学校については丹波市に移管して県も補助し、存続することになりました。



▲県立柏原病院へ視察の際、看護専門学校について質問し、存続を求めました。(1月26日)



神戸市小中学校で 計画的にエアコン設置

共産党が教育環境の改善として強く要求していた、エアコン設置が前進します。神戸市会での共産党議員に市当局が答えたもの。順次設置される予定です。

▲暑さ対策など教育環境について小学校校長先生と懇談。写真右から西市議、きだ

所得制限も緩和

神戸市の子どもの 医療費(通院)が 2歳まで無料に

通院無料は0歳児だけだった神戸市の乳幼児医療費助成。抜本的拡充を求めて、署名を集め、議会でも何度も取り上げてきました。昨年12月から、2歳まで無料になり、所得制限も緩和されました。

しかし、まだ他市より大分遅れており、中3まで無料化へひきつづきがんばります。



▲幼稚園、保育所前前で署名をよびかける

県立こども病院は ポーアイ移転でなく安全な場所で建て替えを

県は、患者・家族や医師会の反対を無視して県立こども病院のポーアイ移転を強行しようとしています。しかし、南海トラフ地震で港島トンネルが冠水する可能性を県も認め、またポーアイ1期の液状化でアクセスが途絶し、ライフライン損傷などの恐れがあります。移転先に隣接する中央市民病院との「一体的運用」がメリットといいますが、両病院間の搬送は救急車等を使うことになっており、とても「一体的運用」とはいえません。きだ県

議は議会でもくり返し、現在地を含め安全な場所での建て替えを訴えています。



ポーアイ移転撤回を求める3万2千人の署名を添え、県に申し入れ(10月29日)



県立こども病院のポーアイ移転を考えるシンポジウム 県医師会館(11月24日)

借り上げ住宅の被災者は 希望者全員を継続入居に

入居時に転居の説明もしていないのに県や市が追い出すのは許されません。きだ県議は、震災後紡ぎ直した人のつながりを行政が断ち切ることやめ、希望者は継続入居できるように県にくり返し求めています。



継続入居を求め、入居者の方と県交渉。写真右から2人目きだ、左端は松本市議(11月30日)



入居者連絡会の皆さんと県庁前で訴え(10月26日)

原発から 即時撤退を



大飯原発の再稼働に抗議する県庁前集いに参加

福島第一原発の事故がまだ収束していないように、一度暴走すると止められないのが原発です。次々と原発敷地内に活断層が指摘されるなど、安全な原発はありません。また事故を起こした時の賠償などを考えると最もコストがかかるのが原発であり、自然エネルギーこそ低コストです。電力も足りています。全原発を停止したまま廃炉にしていこう「即時原発ゼロ」が最も現実的で責任ある対処だと考えます。